

調査報告概要表

作成日 2008年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670300393
法人名	社会福祉法人恵仁会
事業所名	グループホーム ふれあい
所在地 (電話番号)	鹿屋市下祓川1805番地 (電話) 0994-40-2588
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年12月9日

【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9 人
常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独) (新築) 改築
建物構造	合金メッキ鋼板葺平屋造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	無	実費
敷金	有(無)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低 65歳	最高 101歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 青仁会 池田病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの中庭には季節が感じられる木々が植えてあり、ホームの裏手には菜園を設けるなど、利用者が和める環境が整っている。建物は広い共用空間があり落ち着いた雰囲気、日中は利用者が過ごしやすく、職員と共に会話や歌を楽しむなど支えあいながらも楽しく過ごすことができ、隣接した医療機関もあり、利用者の健康管理を行い家族からの信頼も厚い。また、地域の方々には認知症を理解してもらい、地域の中で暮らすために研修会を開いたり、講師を派遣したり、小学生と共にリサイクルの勉強会を行うなど職員の質の向上はもとより地域との無理のない交流にも取り組む地域での福祉の中核施設である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題はなく、よりよい運営に向け、日々改善に向け、努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組みよりよい運営を目指して話し合われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域自治会の副会長等の地域の代表や地域包括支援センター職員、市の職員が出席しており、それぞれの立場からの意見をもらい、運営に役立てられている。また、市の担当部署や法人内にある地域包括支援センターへの訪問・相談を通して、問題解決に向けて協働して取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりは、定期的に書面をもって報告し、金銭管理は、お便りや訪問時に個々に合わせた報告がなされ、日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りにも努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。出された苦情・要望は、書面に記載して職員で改善にむけて話し合いを行い、第三者委員会に図り運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会の催事に積極的に参加しており、近隣の保育園等との交流を図っている。また、認知症ケア研修会の情報提供をしたり、高齢者のアイデアを活かしたりリサイクルの勉強会を小学生と共に行うなど、認知症を理解してもらいながら、事業所と地域の人々が無理なく交流し合える関係を工夫している。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が安心して生活できる家づくりを目指して地域と密着したホーム作りを理念としている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、日々のミーティングにおいて理念の具体的な実践について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会の催事に積極的に参加しており、近隣の保育園等との交流を図っている。また、認知症ケア研修会の情報提供をしたり、高齢者のアイデアを活かしたりサイクルの勉強会を小学生と共に行うなど、認知症を理解してもらいながら、事業所と地域の人々が無理なく交流し合える関係を工夫している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、前回の結果を共有し自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域自治会の副会長等の地域の代表や地域包括支援センター職員、市の職員が出席しており、それぞれの立場からの意見をもらい、運営に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当部署や法人内にある地域包括支援センターへの訪問・相談を通して、問題解決に向けて協働して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは、定期的に書面をもって報告しており、職員の異動時にはそのつど挨拶を行っている。金銭管理は、毎月のお便りや訪問時に報告されており、個々にあわせた報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。出された苦情・要望は、内容の詳細を書面に記載して職員で改善にむけて話し合いを行い、第三者委員会に図り運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行い、利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会を2ヶ月に1回行い、経験年数に応じた職員向けの研修も計画し研修を行っている。職員会議や申し送りの中で、研修報告を行うとともに職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会長施設として大隅地区のグループホーム協議会に加入し、職員が交代で交流会へ参加している。その機会を利用して、他のホームの職員と交流する機会が確保できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない方には管理者が出向いて顔馴染みの関係を作るような取り組みをしている。また、関係機関からのサマリーをもとに、場に馴染めるような配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の野菜を職員と利用者が一緒に栽培したり、料理の下ごしらえをする中で共に過ごす関係を築いている。体を動かすケアピクスや3B体操も頻繁に行われており、一緒に活動したり、楽しんだりする機会を多く設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話を傾聴し、日々のかかわりの中で思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の脚力向上を念頭においた計画を作成するため、計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の介護計画作成をしている。職員の気づき、ご本人・ご家族の意見の確認は介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見、要望を取り入れ、状態の変化が生じた場合、そのつど見直しを行い、毎月の会議で介護計画の見直しの必要性を全職員で検討し、評価は月に一度行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や外泊支援、個別買い物支援を行っており、家族宿泊時は食事を提供している。また、小学校やヘルパーステーション等に職員を講師として派遣し事業所として地域に貢献している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、定期的な受診、通院介助の対応がなされ、利用者及び家族の希望を大切に、その上で協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、過去に看取りケアの事例があり、その際にも職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者・職員は、日々のケアの中で利用者への言葉遣いや職員間の会話に配慮するように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや配膳を能力に応じてしてもらい、食前の嚥下体操を楽しむことの一つとして取り入れ、和やかな雰囲気を作っている。職員も同じテーブルで食事し会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調と希望に応じて入浴支援を行っている。入浴を拒否する場合は、無理強いせずに時間を変えるなど個別に対応し、一人ひとりの時間をゆつくりとり、入浴の楽しみを感じてもらえるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、季節を感じるための畑作業(野菜類・干し柿・干し大根)家事や趣味(らっきょう漬、梅酒づくり)を楽しんだり、お手伝いをすることでそれぞれの役割を見出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回のドライブ、本人の気分や天候に応じて食事の買い物、天気の良い日は散歩など日常的に屋外に出るほか、中庭の木の手入れをしたり、法人内行事や地域行事等への参加を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は、利用者の状態を把握し、利用者一人ひとりサインを見逃さず、さりげなく一緒に散歩に出るなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め、定期的な訓練を行っており、消防関係者や地域住民の協力を得ている。災害時に必要とされる備蓄の管理も法人単位でなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1400キロカロリーの食事提供と水分1500ccを目安にしており、法人内の管理栄養士からアドバイスももらっている。嚥下に支障のある利用者には、ソフト食やとろみをつける等の工夫を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく家庭的で、生活感や季節感が感じられる空間となっている。利用者は、和室やソファなど思い思いの場所でくつろげる配慮がなされ、利用者や職員が使いやすいように手作りの家具や工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや思い出の写真をはじめ、テレビや位牌、趣味の品など利用者の馴染みの道具が多く見られる。		